

安全データシート(SDS)

作成日 2015年9月11日

改訂日 2019年9月 9日

1. 化学品及び会社情報

製品名	油撃破 (ABURA GEKIHA) (使用用途) 厨房器具等の洗浄用
会社情報	
会社名	クリマテ株式会社
住所	兵庫県神戸市兵庫区三川口町1丁目1-36
電話番号	078-681-0630
ファクス	078-599-7900

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	
金属腐食性物質	区分1
健康に対する危険性	
急性毒性	区分5
皮膚腐食性/刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険
皮膚刺激
重篤な眼の損傷
臓器の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
保護手袋を着用すること。
保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

【廃棄】

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

※アルミ製品には使用不可。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物
組成及び成分情報

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号
水酸化ナトリウム	5未満	1310-73-2	1-410
ノニオン性界面活性剤	5～10	あり	あり
ブチルセロソルブ	2～6	111-76-2	2-407
エチレンジアミン四酢酸 Na	1～4	13235-36-4	2-1265

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 多量の水と石けんで洗うこと。 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪いときは医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	周辺設備に適した消火剤を使用する。
特有の危険有害性	加熱すると容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火を行う者の保護	防火服/防災服/耐火服を着用すること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	回収が終わるまで十分な換気を行う。 適切な保護具を着用する。
封じ込め及び浄化の方法及び器材	不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。
二次災害の防止策	漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	(取扱者のばく露防止) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 (火災・爆発の防止) 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。- 禁煙。

局所排気・全体換気 安全取扱注意事項	排気/換気設備を設ける。 保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。 取扱中は飲食、喫煙してはならない。
保管	
技術的対策	容器を密閉しておくこと。 直射日光を避け、換気の良い冷暗所(または暗所)で保管する。 アルミ製容器は使用不可。
容器包装材料	ポリエチレン、ステンレス、ガラス
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度・作業環境評価基準	データなし
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	データなし
設備対策	適切な換気のある場所で取扱う。 洗眼設備を設ける。 手洗い/洗顔設備を設ける。
保護具	
呼吸器用保護具	呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
衛生対策	取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
9. 物理的及び化学的性質	
外観	青色透明液体
臭い	わずかに特異臭
pH	約13(1%) アルカリ性
溶解度	水に任意に溶解
比重	約1.05
引火点	データなし
沸点	データなし
10. 安定性及び反応性	
安定性	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	水溶液は、強塩基である。酸と激しく反応し、亜鉛、アルミニウム、鉛、スズなどの金属に対して腐食性を示す。可燃性/爆発性のガス(水素)を生じる。アンモニウム塩と反応する。アンモニアを生じる。火災の危険を生じる。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。 火源との接触。
混触危険物質	酸、アンモニウム塩
11. 有害性情報	
製品の有害性情報	情報なし
成分の有害性情報	(水酸化ナトリウム)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	[日本公表根拠データ] (水酸化ナトリウム)

眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	ブタ/ラビット 重度の壊死 (ACGIH 7th, 2001et al) [日本公表根拠データ] (水酸化ナトリウム) ラビット 腐食性 (SIDS, 2009)
特定標的臓器毒性(単回暴露)	[区分 1] [日本公表根拠データ] (水酸化ナトリウム) 呼吸器系 (PATTY 5th, 2001)
成分の有害性情報 急性毒性(経口)	(ノニオン性界面活性剤) エチレンオキシドの付加モル数により、毒性値が著しく異なる (1,300 mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数 10 の場合)、> 15,900 mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数 20 の場合)) (CERI・NITE 有害性評価書 No.96 (2004))ため、分類できない とした。
急性毒性(経皮)	エチレンオキシドの付加モル数により、毒性値が著しくことなる (1,800 mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数 7 の場合)、> 10,000 mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数 40 の場合)) (CERI・NITE 有害性評価書 No.96 (2004))ため、分類できない とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	CERI・NITE 有害性評価書 No.96 (2004)のウサギを用いた皮膚 刺激性試験の記述に、エチレンオキシドの付加モル数 2~9 の場合の原液が、「中等度から強度の刺激性を示した」とある ことから、適用時間は不明であるが、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	CERI・NITE 有害性評価書 No.96 (2004)の記述に、ウサギを用 いた眼刺激性試験のエチレンオキシドの付加モル数 2~15 の 場合の原液が「中等度から強度の刺激性を示した」とあること から、「強い刺激性を有する」と考え、区分 2A とした
皮膚感作性	CERI・NITE 有害性評価書 No.96 (2004)のモルモット を用い たエチレンオキシドの付加モル数 6 の場合の感作性試験の 記述に「感作性を示さなかった」とあるが、この報告 1 例だけ であるので、データ不足のため、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	CERI・NITE 有害性評価書 No.96 (2004)、NITE 初期リスク評 価書 No.96 (2005)の記述から、経世代変異原性試験(優性致 死試験)で陰性、生殖細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験なし、体細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験(小核試験)で陰性、であることから「区分 外」とした。
発がん性	NITE 初期リスク評価書 No.96 (2005)に毒性試験データの記 載があるが既存分類がないため、専門家の判断に従い、分類 できないとした。
生殖毒性	NITE 初期リスク評価書 No.96 (2005)の記述から、親動物の一 般毒性に関する記述はないが、妊娠率や胚数の減少がみられ ていることから、区分 2 とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため、分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし
成分の有害性情報 急性毒性(経口)	(ブチルセロソルブ) ラットの LD50 値として、470-3,000 mg/kg の範囲内で 10 件の 報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ (4 件)

急性毒性(経皮)	<p>(470 mg/kg、917 mg/kg (環境省リスク評価第 6 巻 (2008))、約 1,500 mg/kg (NTP TR484 (2000))、1,746 mg/kg (SIDS (1997)、NICNAS (1996)) が該当する区分 4 とした。なお、2 件が区分外 (国連分類基準の区分 5)、4 件が区分 4 又は区分 5 に該当する。</p> <p>ラットの LD50 値として、> 2,000 mg/kg の範囲で 3 件の報告がある。ウサギの LD50 値として、72 mg/kg から > 2,000 mg/kg の範囲内で 16 件の報告があり、合計 19 件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ (9 件) (220 mg/kg (ATSDR (1998))、220 mg/kg (環境省リスク評価第 6 巻 (2008))、約 400 mg/kg (ACGIH (7th, 2003))、435 mg/kg (SIDS (2007)、NICNAS (1996))、404-502 mg/kg (CICAD 67 (2010))、405-504 mg/kg (DFGOT vol. 6 (1994)、ECETOC TR95 (2005))、567 mg/kg (雄)、636 mg/kg (雌) (NICNAS (1996))、612 mg/kg (DFGOT vol. 6 (1994))、841 mg/kg (1,060 mg/kg (雄)、667 mg/kg (雌)) (EU-RAR (2006)、ECETOC TR95 (2005)) が該当する区分 3 とした。なお、2 件が区分 2 に、2 件が区分 2 又は区分 3 に、1 件が区分 3 又は区分 4 に、2 件が区分外に該当する。</p>
急性毒性(吸入・蒸気)	<p>ラットの LC50 値 (4 時間) として、450 ppm (SIDS (2007)、環境省リスク評価第 6 巻 (2008))、486 ppm (雄)、450 ppm (雌) (ACGIH (7th, 2003)、ATSDR (1998)、CICAD 67 (2010)、ECETO TR95 (2005)、NICNAS (1996)、NTP TR484 (2000)、SIDS (2006))、500 ppm (ATSDR (1998)) との報告に基づき、区分 2 とした。</p>
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	<p>ウサギを用いた皮膚刺激性試験の報告が複数あり、OECD TG 404 相当の 2 試験では「刺激性あり」(SIDS (2006)、ECETOC TR95 (2005)、NICNAS (1996))、所見として重度の持続的な紅斑及び重度の浮腫がみられたが 7 日後には回復したと報告されている (SIDS (2006))。他の 4 時間適用をおこなった皮膚刺激性試験では「軽度の刺激性あり」、あるいは「刺激性あり」と報告されている (SIDS (2006)、ECETOC TR95 (2005)、EU-RAR (2006))。また、ウサギに 24 時間、半閉塞条件下で適用した結果、適用直後に軽度から中等度の紅斑 (5/6 匹)、軽度の浮腫 (4/6 匹) がみられ、適用 48 時間後には軽度から中等度の紅斑 (4/6 匹)、軽度の浮腫 (3/6 匹) がみられた (EU-RAR (2006))。本試験における一次刺激スコアは 1.5 であった。また、モルモットを用いた皮膚刺激性試験においても「刺激性あり」との結果がある (SIDS (2006)、EU-RAR (2006))。以上の結果から区分 2 とした。なお、本物質は EU DSD 分類で「R38」、EU CLP 分類で「H315 Skin Irrit. 2」に分類されている。</p>
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	<p>ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405、GLP 準拠) において、投与後 24-27 時間後の角膜混濁のスコア 0.9、虹彩炎のスコア 0.6、結膜炎のスコア 2.6、結膜浮腫のスコア 1.8 であり、21 日後までに回復したとの報告がある (ECETOC TR95 (2005)、EU-RAR (2006))。また、他にもウサギ用いた眼刺激性試験の報告が複数あり、ドレイズ試験法で強度の刺激性を示した (SIDS (2006)、EU-RAR (2006)) との報告がある。また、ヒトでは痛みを伴う刺激とともに時に角膜混濁も起こすが、その症状は一般に数日以内に回復すると記述されている</p>

生殖毒性	<p>(DFGOT vol. 6 (1994))。以上の結果から区分 2A とした。</p> <p>ラットを用いた吸入経路での催奇形性試験、ウサギを用いた吸入経路での催奇形性試験 (OECD TG 414)、ラットを用いた経口経路 (強制) での催奇形性試験 (OECD TG 414) において、母動物毒性 (体重増加抑制、臓器重量の変化、血液パラメータの変化) がみられる用量 (吸入では 200 ppm (970 mg/m³), 経口では 200 mg/kg bw/day) で発生影響 (着床数の減少、吸収胚の増加など) がみられた (SIDS (2006))。したがって、区分 2 とした。</p>
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	<p>ヒトにおいては、吸入経路及び経口経路で気道の刺激性、嘔吐、眩暈、嗜眠、昏睡、呼吸困難、散瞳、代謝性アシドーシス、ヘモグロビン低下、血尿、経口摂取で、低カリウム血症、血清クレアチニン濃度の上昇、シュウ酸エステル結晶の尿中排泄量の著しい増加、低酸素血症、肺水腫、成人呼吸窮迫症候群 (ARDS)、血小板減少を伴う非溶血性低色素性貧血が報告されている (EU-RAR (2006)、SIDS (2007)、環境省リスク評価第 6 巻 (2008)、ACGIH (7th, 2003))。</p> <p>ラットの 450 ppm の吸入ばく露で、浅速呼吸、協調運動の喪失、泌尿生殖器周囲の赤色化、腎臓の肥大及び脱色、膀胱の赤色液 (SIDS (2007))、486 ppm で重度のヘモグロビン尿、呼吸困難、肺、腎臓、肝臓、脾臓の変化 (具体的な記載なし) (ACGIH (7th, 2003))、475 ppm で血尿、協調運動不良、マウスの吸入ばく露では、560 ppm 以上で、呼吸困難、重度のヘモグロビン尿、脾臓の濾胞での貪食像及び静脈鬱血、限局性壊死、リンパ過形成、間質性腎炎、気管支肺炎 (EU-RAR (2006)) が見られた。経口ばく露では、ラットの 1,120-1,420 mg/kg で不活発、衰弱、昏睡、肺の出血、腎臓の重度の鬱血、ヘモグロビン尿、血尿、斑状肝、マウスの 1,519-2,005 mg/kg で活動低下、努力呼吸、呼吸困難、無食欲、振戦、高用量で血尿、死亡動物で胃腸の出血 (EU-RAR (2006)) の報告がある。</p>
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	<p>ヒトでの知見は反復ばく露影響に関して利用可能な情報はない (SIDS (2007)、CICAD 67 (2010))。実験動物ではラットに 13 週間飲水投与した試験で、区分 2 相当の用量 (約 70 mg/kg/day) で、血液系への影響 (赤血球数減少など)、精子濃度の減少がみられた (CICAD 67 (2010))。</p> <p>吸入経路ではラット及びマウスにおける 14 週間及び 2 年間吸入ばく露試験において、区分 1 に該当する低濃度 (0.15 mg/L/6 hr) から、貧血所見 (赤血球、ヘモグロビン濃度及びヘマトクリット値の減少、網赤血球比率の増加など) がみられており (SIDS (2007)、CICAD 67 (2010))、影響はマウスよりラットで強く、雄より雌で強く発現する傾向がみられた (CICAD 67 (2010))。ラット、マウスともに 14 週間吸入ばく露試験では、区分外の高濃度で脾臓の髓外造血亢進、脾臓、肝臓、腎臓におけるヘモジデリン沈着、骨髄での造血細胞増生など血液影響に関連した二次的变化が認められている (CICAD 67 (2010))。なお、本物質ばく露ではヒト、実験動物のいずれにも精巣への明らかな影響を生じなかった。以上より、区分 1 (血液系) に分類した。</p>
吸引性呼吸器有害性	データなし

成分の有害性情報 急性毒性(経口) 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 特定標的臓器毒性(単回ばく露)	(エチレンジアミン四酢酸4ナトリウム) rat LD50=1700~1913 mg/kg (EU-RAR, 2004) ラビット：軽度の角膜混濁 (EU-RAR, 2004) 全身毒性 (EU-RAR, 2004) 区分2
12. 環境影響情報	
製品の環境影響情報	情報なし
成分の環境影響情報 水生環境急性有害性	(水酸化ナトリウム) [日本公表根拠データ] (水酸化ナトリウム) 甲殻類(ネコゼミジンコ属) LC50=40.4mg/L/48hr (SIDS, 2004)
水溶解度	109 g/100 ml (20 C) (ICSC, 2010)
残留性・分解性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
成分の環境影響情報 水生環境急性有害性	(ノニオン性界面活性剤) NPE30:魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC50>1,000mg/L(CERI・NITE 有害性評価書、2005)から、区分外とした。
水生環境慢性有害性	エチレンオキシドの付加モル数や試験条件によって分解性や生物蓄積性が異なり、各鎖長についてのデータが得られないことから、分類できない。
オゾン層への有害性	データなし
成分の環境影響情報 水生環境急性有害性	(ブチルセロソルブ) 魚類(シーブスヘッドミノー)での 96 時間 LC50 = 116 mg/L(環境省リスク評価第 6 巻, 2008、他)、甲殻類(ウシエビ属)での 96 時間 LC50 = 130 mg/L(環境省リスク評価第 6 巻, 2008、他) 区分外
水生環境慢性有害性	急速分解性があり(BOD による分解度:96%(既存点検, 1976))、又、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=0.83(PHYSPROP Database, 2009)ことから、区分外とした。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物 汚染容器及び包装	関連法規並びに地方自治体の基準に従って廃棄する。 空容器を処分する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。汚染容器の廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託処理する。但し通い容器の場合は、メーカーに引き取ってもらう。
14. 輸送上の注意	
輸送の特定の安全対策及び条件	輸送前に容器の破損、腐食漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

15. 適用法令

水質汚濁防止法
化学物質管理促進法
化審法

pH 水素イオン濃度
第一種指定化学物質 No.410 含有
優先評価化学物質 含有

16. その他の情報

備考

この安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS 中の注意事項は通常の手配を対象にしたものです。製品使用者が特殊な手配をされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。また、当社は SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。